

## CONTENTS

なぜ、丸机なのか？

二十一世紀教育研究所代表／筑波大学名誉教授 中山和彦

MC 研修会開催される

つくば市における事例報告～ソフトウェアの面から～

進学会システム

研修会のお知らせ

## なぜ、丸机なのか？

二十一世紀教育研究所代表／筑波大学名誉教授

中山和彦

スタディの教室の机は丸机であることが比較的多い。なぜ丸机であるかを尋ねられることがしばしばある。コンピュータを最初に導入した竹園東小学校が丸机であったから、その真似をして丸机が使われるようになったのだといわれればそのとおりである。

しかし、竹園東小学校を丸机にしたのにはそれなりの理由がある。日本の小学校には、学習者一人ひとりがコンピュータや端末を1台ずつ使って学習するシステムは当時まったくなかった。そこでアメリカの例を調べてみると、1台ずつのコンピュータを載せた机が壁際に置かれている例が多く、隣の人の答えが見えないように間仕切りを付けているようなものもあった。私は、学習に当たっては人と人との相互作用が重要であると考えていた。先生と生徒との相互作用が重要なのは改めて言うまでもないが、学習者同士の相互作用も非常に重要であると考えていた。従って、壁の方を向いて座り、隣の人との間に仕切りがあるので、先生は後ろから覗き込むだけで、

学習者は先生と対面して話すことは出来ないし、ましてや隣の友達と話すことはできず、人と人との相互作用を望むことはできないと考えた。

そこで、円形の机を導入することにした。円形の机は学校にはないので、教室の一人机を4台集め、その上に厚いベニヤ板を円形に切ったものを載せて円形机を作った。その上に、対角線方向に4台の端末を載せて使うようにした。また、椅子はくるくる廻ることができるような丸椅子を設置した。

このようにすることによって、隣の人の答えは自分の席から立って歩いて行かなければ見ることは出来ないが、同じ机の人たちの間では話し合うことができ、先生とも椅子を回転することによって対面して話すことができるようになることを期待した。生徒同士の関係は、4人がいつも同じ机で学んでいるのでグループのような関係になり、困った時にはお互いに助け合って学習することが行われるようになるであろう、と考えた。また、先生は円形机の間を見て

(4ページ上へ続く)

## MC 研修会 開催される

5月27～28日 東京・市ヶ谷

シャープ東京市ヶ谷ビルで2006年度のメディアコーディネータ研修会（MC研）が開催された。このMC研では、コンピュータを用いた教育の重要性や必要性、背景となる理論などの講演、最新情報や実践事例の紹介などといった座学、及びグループに分かれてのディスカッションや研修会企画案の作成といった実践的なセッションが行われた。夏の地域での研修会では、MC研に参加された先生方の活躍によって、新たにスタディを使ってみたい、と思う「スタディファン」が増えるであろう。



札幌市立羊丘中学校 梅津由一

間近に夏の研修会を持つことにあたり、非常に有益なMC研修会となりました。東原先生からは現在進んでいるプロジェクトについての紹介があり、余田先生からは我々の実践の背景となる学習理論についての解説もありました。毎回のことで、自分で実践しながら何となく感じていることの理論的な背景を明確にしてもらって、非常にすっきりします。

1日目には中山先生から「すべての子供のために」という講演があり、実践の背景となる教育哲学についてちっとも衰えない熱意を持ったお話をいただきました。またSSPの方からハイビジョ

ンの教材例を紹介され、その可能性の確かさを実感しました。価格の面ではまだ身近なものではありませんが、今後の映像教材はすべてハイビジョンで用意すべきなのではないかと感じました。

2日目には実践例が紹介され、長野の橋澤先生からメタ認知にも配慮したNoteのマップ機能を利用された大変おもしろい実践が紹介されました。小学校の実践ですが、是非中学校でもやってみたくなりました。また筑波の吉田先生からは、CAIの実践30年を記念する研究会の紹介がありました。この30年で何が違って、何が変わっていないのか、我々はどのようにしていくべきなのか、いろいろと考えさせられる研修会となりました。

兵庫県丹波市立北小学校 荒木真也

「コンピュータを使わせるより、もっと大切なことがある。」「コンピュータを使う前に、もっと基礎的なことを教えないと...」と先輩の先生から言われたことがあります。そのときには何も言えず、「そうかなあ...。やっぱりそうなんだ。」と思い込んでしまいました。

しかし、今回この研修会に参加してこの考えは一気に覆されました。子ども一人ひとりを大事にしているからこそコンピュータが必要であり、ICT教育が必要だということがわかりました。

そして、スタディシリーズが「子どもは一人ひ

とり違う。」「子どもは正しく間違える。」という考えのもとに開発され、どうしたら一人ひとりの子どもが自分の能力を伸ばすことができるかということに常に目指しているということを知りました。

これまではこういったことを知らずに使っていましたが、しっかりとした意図を持って授業の中で使っていきたいと思います。ありがとうございました。



(写真は研修会風景)

### 研修会のお知らせ

### より多くのスタディファンを目指して

これからの季節、全国各地でスタディに関する研修会が開催されます（次ページ参照）。この研修会に初めて参加される方にはスタディの持つ可能性を体験していただき、またこれまでスタディを活用されてきた方には新たな活用方法や最新情報に接して頂き、学校で実践して頂きたいと願っております。申し込み方法などは詳細が決定され次第、随時スタディシリーズのホームページ(<http://www.study.gr.jp>)に掲載されます。

## つくば市における事例報告～ソフトウェアの面から～

つくば市の中心部より車で20分ほどに校舎を構える吉沼小学校(神立喜文校長、元・竹園東小学校)に、山田教諭の取材をお願いいたしました。

授業の対象は1年生で、教材は算数の「たし算」「ひき算」による復習授業です。パソコン立ち上げから教材を開くまで、全て児童が自分たちで行うのには驚かされました。初回のパソコン授業では、立ち上げの指導アドバイザーとして6年生についてもらったそうですが、2回目からは自分たちで立ち上げられるようになったそうです。



### 山田先生の感想

「1年生でもパソコンに全く抵抗感がなく、皆生き生きと夢中で取り組んでいます。特に算数の苦手な子にはとても役立っており、計算が速くなりました。自分のペースで繰り返し学習できるのが良いみたいですね。」

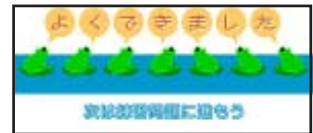
そんな山田先生の教科利用順位は、1番算数、2番社会、3番理科、4番国語です。

### 他の先生方の意見

- ・児童は授業を楽しみにしています。
- ・中学校の教材にチャレンジしている児童もいます。

### 児童の反応

- ・「つくばオンラインスタディ」を自宅でも使っている。
- ・全問正解するとカエルが出てくるのがとても楽しい。
- ・表彰状が出てくるのでとても励みになる。



### 教育委員会より

吉田指導主事は、「つくばオンラインスタディ」は学力低下対策に最適であり、パソコンの苦手な先生でも簡単に使えるので、指導者利用100%を目標に小・中学校を巡回されています。

今回の取材以外にも、算数の苦手な小学校6年生が3年生の時点でつまづいていることが分かり学力が向上した成績向上例や、カゼで休んだ子が「つくばオンラインスタディ」で父母と共に家庭で学習しているなどの事例もお聞きすることができました。

(文責：進学会システム)



### 夏の研修会予定

印の研修会は、M C 研修会で企画内容が検討されたものです。

開催地	日程	研修会名称	会場	主催
北海道	8/4-5	ECHOの会 夏期研修会 in 知床	斜里町立斜里中学校	ECHOの会
東京都	8/17-18	ICT活用研修会(教材作成)	日野市立教育センター	日野市教育委員会
長野県	8/8	長野県上伊那南部地区 夏休みコンピュータ活用研修会	駒ヶ根市立赤穂東小学校	上伊那南部教職員会 情報教育委員会・視聴覚教育委員会
静岡県	8/26	コンピュータを利用した 授業改善研修会	磐田市内	中部スタディブレインズ
京都府	8/10 8/11	スタディネットワークショップ コンピュータ教育利用夏期研修会	同志社女子大学ジェームス館 同上	同志社女子大学 近畿情報教育ネットワーク
兵庫県	8/1	とことんスタディシリーズ 活用講座	丹波市立東小学校(予定)	丹波市教育委員会
岡山県	7/1-2	ICT利活用実践セミナー in 倉敷	ライフパーク倉敷	21世紀教育研究所
熊本県	8/7	ICT活用推進夏期研修会	熊本市立東町小学校	熊本県小中学校情報教育研究会・ 21世紀教育研究所

(1ページ下より)

回ることによって、学習者の一人ひとりの学習状況を知ることができ、また、必要な指導を個に応じてすることができるようになるであろうと考えた。

このような期待の下に円形机を導入したのであるが、結果は期待通りであった。グループの中でどうしても分からない子どもがいるときは、他の子どもが助けて分かるように指導していた。先生の机間巡視によ

る個別指導については、1授業時間における先生の行動を何回か調査した結果、すべての子どもの机に行き、その子どもの学習状況をチェックし、子どもと対話をしていることが示された。

このような丸机ならではの成果が得られたので、竹園東小学校以降にコンピューター室を設置する学校には円形机を導入することを薦めているのである。



## SSPからのお知らせ

スタディのホームページに「スタディシリーズライブラリ」を開設しました。ユーザーズマニュアルや設定マニュアルなど、スタディ採用校の先生方に役立つ資料を掲載していますのでご利用ください。

<http://www.study.gr.jp/>



スタディHPトップページから「サポート」を選び、「スタディシリーズライブラリ」をクリックしてください。

- 主な掲載内容
- ユーザーズマニュアル
- 製品のマスターCDに登録されているPDFファイルを掲載しています。
- ・スタディノート
- ・スタディノートWeb掲示板システム
- ・スタディノートポケット
- ・スタディサーバ for Web
- ・スタディライター for Web

インタラクティブスタディ利用開始までの流れ  
必要な準備をチェックシートで確認できます。

- ・インストール前に決定しなければならない事

- ・インストールの直後に知っていただく事
- ・教材を入手し登録する方法を知り自分で登録する
- ・先生と児童生徒の登録方法を知り自分で登録する
- ・未設定のパソコンでインタラクティブスタディが使えるかチェックし、使えるようにする方法
- ・日常での運用
- 年度更新マニュアル
- スタディシリーズ研修会資料

掲載する資料は、今後、充実を図って参ります。

尚、利用にはID、パスワードが必要です。弊社担当者までご確認ください。



## 東大英数理教室

引き続き「Study21」について紹介します。

「Study21」では「にがてクリア」などのわかっていない子・間違えてしまう子に対しての仕組が充実していますが、基本を充分理解している子や、教科書レベル以上を求める子に対しても配慮されています。例えば、「練習」では、「力だめし」での理解度に応じて問題数や問題内

容を調整していますので、わかっている子どもたちには十分な問題演習が行なえます。さらに余裕のある子には「チャレンジ」で応用問題や入試レベルの問題にも挑戦できるようになっています。このように、クラス全ての子ども達が授業時間をフルに活用し、個々のレベルアップを図ることができるようになっていきます。

ご興味をお持ちいただいた場合は、評価用の教材のフリーダウンロードサービスも行なっ

ていますので、是非下記ホームページにお越し下さい。

<http://tek.jp/study21/>

単元別 各7,350円  
10単元セット 73,500円

各製品は「スクールライセンス」での提供です。同一施設内の全コンピュータでお使い頂けます。

開発・制作  
株式会社東大英数理教室

発行人: 21世紀教育研究所  
Educational Research Institute for the 21st Century

代表 中山和彦

〒305-0045

茨城県つくば市梅園2-33-6

電話 029-850-3321

FAX 029-850-3330

Email econews@eri21.or.jp

URL <http://www.eri21.or.jp>